

CSSnITE

LP7

in

09.09.12

<http://lp7.cssnite.jp/>

日本のWeb制作の中でIA（Web情報アーキテクチャ）を専門業務として担当されている方は多くありませんが、ユーザー調査、ペルソナ設計、メンタルモデル開発、情報設計、ウォークスルーテストなどのIA的手法が求められるケースや、また、より結果を出すためのサイト設計のために、IA的な視点が生かせないか、と考える方が増えているようです。

2009年に入ったあたりからIAについて取り扱って欲しい、という声が多くいただいています。2009年6月に開催したCSS Nite in Ginza, Vol.36（出演：佐藤伸哉さん）は、2ヶ月以上前から200名を超える参加表明をいただくなど、実際の注目度も高く、8月（CSS Nite in Ginza, Vol.38）には長谷川敦士（コンセント）さん、そして、IAにフォーカスしたスペシャル版のCSS Niteとして「LP7（IAスペシャル）」を企画しました。

日時 2009年9月12日(土) 13:00~18:50

会場 ベルサール神田（千代田区神田）

定員 260名(拡張あり)

出演 長谷川敦士(コンセント)、坂本貴史(ネットイヤーグループ)、佐藤伸哉
林千晶(ロフトワーク)、長谷川恭久(could)、小久保浩太郎(GA)

主催 CSS Nite実行委員会

協力 サイバーガーデンbiz

協賛 デジタルスケープ、awesome! クリエイターズショップ、Multi-Bits
毎日コミュニケーションズ、Web検定

メディア協賛 ASCII.jp Web Professional、Web担当者Forum、ウェブエキスパート

参加費 9,000円(8月12日まで早期割引8,000円) ※事前申し込みが必要です。

講演内容と講演者プロフィール

情報アーキテクチャの全体像 ～ワークフローとケーススタディ～

本セッションでは、いまやWebプロジェクトには欠かせないものとなった情報アーキテクチャ (IA) 設計の重要性とその役割、そしていったい誰が担うべきなのかを解説します。

また、具体的にWebデザインプロジェクトを行う中で必要となるIA技術の全体像を概観し、実際のプロジェクトの中でのIA設計の事例を紹介いたします。

長谷川 敦史 Ph.D. (はせがわ・あつし)

株式会社コンセント

代表取締役社長 / インフォメーションアーキテクト

1973年山形県生まれ。東北大学理学部物理学科卒業。東北大学大学院理学研究科物理学専攻博士前期課程修了 (M.Sc)。東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程修了 (Ph.D)。

ネットイヤーグループ株式会社を経て、2002年「Web時代の設計事務所」をコンセプトに株式会社コンセントを設立、代表取締役社長に就任。数多くの企業Webプロジェクトに携わり、情報アーキテクチャ設計やWebプロジェクト自体をリードしている。情報アーキテクチャアソシエーションジャパン (IAAJ) 主宰するなど、情報アーキテクチャに関する研究・教育活動も行っている。

日本デザイン科学会、ACM SIGCHI、IA Institute 各会員。人間中心設計推進機構 (HCD-Net) 理事。



プロジェクトマネジメントから見たIAの大切さ

SEO、アクセシビリティ、情報アーキテクチャなどWebプロジェクトの責任者としてカバーすべき専門領域は広がるばかりです。

このセッションでは、「IAの専門家ではないディレクター」がWebプロジェクトマネジメントのプロセスの中でどのように「IA」を取り込めばいいのか、具体的なフローやアウトプットを通じて解説します。

林 千晶 (はやし・ちあき)

株式会社ロフトワーク

株式会社ロフトワーク創業者の1人。クリエイターコミュニティ「ロフトワーク」を12,000人を超える日本最大規模に成長させ、同時に業界に先駆けプロジェクトマネジメントやクリエイティブコモンズをロフトワークに導入する。社外に対しても講演や執筆活動を通じ、クリエイティブ業界を中心にプロジェクトマネジメントの重要性やクリエイティブコモンズについて伝えている。

早稲田大学商学部卒・ポス্টン大学院ジャーナリズム学科卒。

現在、ロフトワークにおいてクリエイティブディビジョンとプロジェクトマネジメントオフィスを統括。クリエイティブコモンズジャパンのアドバイザーボードも務める。著書『Webプロジェクトマネジメント標準』(技術評論社)



IAの欠点～IAの本来の目的と役割

情報アーキテクチャ (IA) の様々な手法やアプローチを導入したからといってWebサイトが良くなるわけでも集客が上がるわけでもありません。

何を目的として、どういったタスクを行うかが重要であり、そこを誤解したままではいつまでたっても費用対効果は望めません。

本セッションでは、ビジネスとして成功するポイントを明確にし、クライアント側・制作者側の双方の視点で「なぜIAを行うか」を理解し説明できるようになることを目指します。

佐藤 伸哉 (さとう・のぶや)

ソニー株式会社

クリエイティブセンター プロデューサー

2000年よりiXLやRazorfishなどの米国大手Webエージェンシーでリードインフォメーションアーキテクトを歴任し、2002年秋から2008年春までビジネス・アーキテクツに参加。大規模なサイト構築や日本企業のグローバル戦略案件を数多く手掛ける。現在はネットワークモバイルプロダクツのプラットフォーム戦略やユーザーエクスペリエンス戦略に携わっている。米国情報アーキテクチャ研究所 (IAI) およびUXnetの日本代表。監訳書に『Webデザイナーのための情報アーキテクチャ入門』(翔泳社)、『ペルソナ手法の教科書』(マイコミ) など。



IAワークショップ～LPOをテーマに～

このセッションでは、特定のWebサイトを例に、リニューアルの際に制作するランディングページの制作をワークショップ形式で取り組みます。

課題設定、コンセプトモデルという名で考えられる事象をピックアップ、経験フローなどをワイヤーフレームに落とし込むまでを、IA視点で解説します。

坂本 貴史 (さかもと・たかし)

ネットイヤーグループ株式会社

UXDグループ クリエイティブディレクター

デザイン会社でのグラフィックデザイナーを経て、2000年ごろから本格的にWebデザインに関わる。2002年にWebディレクターとしてネットイヤーグループグループに参加。国内外の企業におけるインタラクティブマーケティング支援 (コンサルティング) やWebサイト構築におけるクリエイティブディレクションを担当。主に、情報アーキテクチャを専門職とし数多くの企業のWebサイト構築に携わる。

自身のブログbookslope blogでも情報アーキテクチャ (IA) やユーザーエクスペリエンスデザイン (UXD) に関する情報発信をし、セミナーや講演などでも幅広く活動中。著書『プロセスオブウェブデザイン 企画からデザインへ落とし込みの技術』(翔泳社)



実装視点からのボトムアップIA

提供する情報が多くなり、より多様なユーザー体験が求められる今日のWebサイト。ハイレベルな情報設計も必要ですが、情報と受け手とのインターフェイスとしての設計もユーザー体験を決定する大きな要因です。

このセッションでは、「コンセプトモデルの一つとしての文書モデル」という考え方をベースにして、HTMLや既存の語彙を基点にした要素の拡張やクラス設計を行うことで、コントロールされた制作フローとユーザー体験を実現するWebサイト設計を考えます。

小久保 浩太郎 (こくぼ・こうたろう)

Information Architects, Inc.

インターフェイスデザイナー

2002年にビジネス・アーキテクツに参加。フロントエンドエンジニアとして多数の企業Webサイトの構築に関わり、実装設計やガイドラインの執筆、コンポーネント駆動開発スタイルの推進などを行う。

2009年5月よりInformation Architects, Inc.に参加、インターフェイスデザイナーとしてWebサイトのIA、UIデザイン、実装などを行っている。



IAからWebサイトデザインへの突破口

Webサイトの構築フローにおいて、IAは必要な要素のひとつに過ぎません。制作・開発のワークフローの中でIAをどのように関連づけていけばいいのか? 「インフォメーション・アーキテクト」という専門職でない方は、どのようにIAと関わればいいのか? など、Webデザインの全体像を把握しつつ、IAの役割と関わりについて考えます。

さらに、現在のWebサイトの役割や利用者や社会との関係、IAの役割を照らし合わせつつ、Webデザインの今後について展望します。

長谷川 恭久 (はせがわ・やすひさ)

could

デザインやコンサルティングを通じてWebの仕事に携わる活動家。

アメリカの大学にてビジュアルコミュニケーションを専攻後、マルチメディア関連の制作会社に在籍。日本に帰国後、数々の制作会社や企業とコラボレーションを続け、現在はフリーで活動。

自身のブログとポッドキャストではWebとデザインをキーワードに情報発信をしてだけでなく、各地でWebに関するさまざまなトピックで講演を行ったり、多数の雑誌で執筆に携わる。

著書に『スタイルシート・スタイルブック』『Web Designer 2.0』など。

(<http://www.yasuhisa.com/>)

